

KUMAMOTO NEWS

2023



探求 × くまモン



4 質の高い教育を
みんなに



6 安全な水とトイレ
を世界中に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



2023.8 熊本県観光連盟

熊本県教育旅行受入促進協議会

New Topics !

- 1 7月15日 熊本地震 震災ミュージアム
(体験・展示施設) 「KIOKU」 グランドオープン
(阿蘇ファームランド近く、旧東海大学阿蘇キャンパス横)
- 2 7月15日 南阿蘇鉄道 「立野駅ー高森駅」 全線開通
ワンピース×南阿蘇鉄道コラボ列車
「サニー号トレイン」が運航開始
- 3 阿蘇火山博物館
くまもと水プログラムのフィールドワーク
新たに受け入れ開始



熊本地震震災ミュージアムとは

平成28年熊本地震の記憶や経験、教訓を確実に後世に伝承し、今後いつどこで起こるか分からない大規模地震災害に備えるため、県内に点在する震災遺構等を活用した回廊形式のフィールドミュージアムを実現する。

⇒ この取組を通して**交流人口の拡大を図り、被災地域ひいては本県の更なる発展に繋げる**

◆基本コンセプト

- 熊本地震の経験や教訓を学び、風化させずに後世に伝承
- 今後の大規模自然災害に向けた防災対応の強化
- 熊本県の自然特性を学び、改めて自然を畏れ、郷土を愛する心を育成
- 国内外からの交流人口の拡大を図り、被災地域、ひいては本県の更なる発展につなげる

◆震災ミュージアムの形態

熊本地震の特徴を踏まえ、広範囲にわたり出現した断層帯にそって点在する震災遺構と地域の拠点など熊本地震の痕跡を遺すものをつなぎ広域的にめぐる「**回廊形式**」の**フィールドミュージアム**とする。

◆震災ミュージアムの構成

- 震災遺構など
- 県が広域的な視点から熊本地震全体に関する情報を効果的に発信するために整備する「**中核拠点**」、市町村がそれぞれの視点から情報を発信するために整備する「**地域の拠点**」
- 既存の文化交流施設、企業活動の場など熊本地震の痕跡を残すもの 等

【熊本地震震災ミュージアムの実現に向けた基本方針】平成30年3月策定



熊本地震の震災遺構

◆震災遺構 58 件 (令和3年11月現在)



旧阿蘇大橋の橋桁
(南阿蘇村)



国指定天然記念物 布田川断層
(益城町)



瀬田神社と巨石
(大津町)



ガードパイプ
(西原村)



旧東海大学阿蘇校舎1号館
(南阿蘇村)



犀角山付近の地表地震断層
(南阿蘇村)

震災ミュージアムの拠点施設

◆中核拠点 2 施設 (令和3年11月現在)

県が広域的な視点から熊本地震全体に関する情報を発信する拠点



県防災センター
(熊本市)



旧東海大学阿蘇キャンパス
(南阿蘇村)

◆地域の拠点 15 施設 (令和3年11月現在)

市町村がそれぞれの視点から情報を発信する拠点



熊本城
(熊本市)



小森仮設団地みんなの家
(西原村)



街なかギャラリー
(御船町)



旧長陽西部小学校
(南阿蘇村)

熊本地震 震災ミュージアム

KIOKU



展示の構成

災害を“自分事”として捉えてもらうために

「その時」の
記憶をたどる

熊本の
大地を知る

自然とともに
生きるためには

あなたへの問い

- ✓ あなたはその時、まず誰にどうやって連絡しますか？
- ✓ 同じ地震なのに、被害が違うのはなぜだろうか？
- ✓ あなたは今、災害時に役立つ何かをもちっていますか？

南阿蘇防災教育プログラム（KIOKU見学を含む）

2016年に発生した熊本地震では、未曾有の2度の震度7の揺れにより大きな被害が発生しました。中でも阿蘇エリアでは地震動による山腹崩壊や地すべりなどの山間地特有の現象により、家屋の倒壊に加えて道路や橋梁等の交通インフラにも甚大な被害が発生しました。その数千年に一度といわれる直下型の大地震の被害の大きさや教訓を後世に伝えていくため、熊本県内では中核拠点となる体験展示施設の開設および震災遺構の保存が行われています。本プログラムでは、体験展示施設にて地震のメカニズムや被害の全体像を学び、また震災遺構「地表地震断層と倒壊した東海大学1号館」「大規模斜面崩落と崩落した旧阿蘇大橋の橋桁」をご覧いただきながらガイドの案内を受けて、防災・減災への意識を高めていただきます。



熊本地震震災ミュージアム 体験展示施設KIOKU



ガイドによる案内



地表地震断層



体験展示施設の館内展示見学



体験展示施設の館内展示見学



崩落した旧阿蘇大橋の橋桁



大規模斜面崩落

■本プログラムのポイント

熊本地震震災ミュージアム 体験展示施設（約60分）

大地が動くメカニズムから、熊本地震当時の各地の被災の様子、そして自然と共生するための知恵について学ぶことができます。

震災遺構①：旧東海大学阿蘇キャンパス（約20分）

キャンパス内に想定外に現れた地表表層断層と、被災した鉄筋コンクリート造りの旧1号館を見て、地震による被害の凄まじさや耐震構造の重要性を感じることができます。

震災遺構②：数鹿流崩之碑展望所（約30分）

熊本地震で発生した最大級の斜面崩壊。その斜面崩壊の跡、崩落した旧阿蘇大橋の橋桁、そして地震に強い橋となった新阿蘇大橋を見て、被災と創造的復興について学ぶことができます。

■学習のみちしるべ

下記テーマで事前・事後学習を行うことで、熊本地震の理解を深め、地震災害の「自分ごと化」を進めることができます。

- 他の日本の大規模地震（例：阪神・淡路大震災、東日本大震災など）と比較して、熊本地震の特徴をまとめよう
- 自分の住む場所の土地の成り立ち、自然災害の歴史やハザードマップ、自然災害伝承碑などを調べてみよう
- 「生き残るための備え（命を守る備え）」と「生き残った後の備え（避難生活への備え）」について、自分自身ができること、習得しておくべきことを考えてみよう

【受入人数】 通年30～160人（1～4クラス程度） 【所要時間】 120～150分（遺構間の移動を含む）

【実施場所】 熊本地震震災ミュージアム体験展示施設（南阿蘇村河陽5435-1）、数鹿流崩之碑展望所

【料 金】 小学生1,000円／中学生1,100円（展示施設入館料、資料代、ガイド代等を含む）

【申込問合せ】 一般社団法人みなみあそ観光局（MAIL: kioku@minamiaso.info / TEL: 0967-65-8065）

熊本復興プロジェクト

ワンピース
「麦わらの一味」



©尾田栄一郎/集英社

タイトル

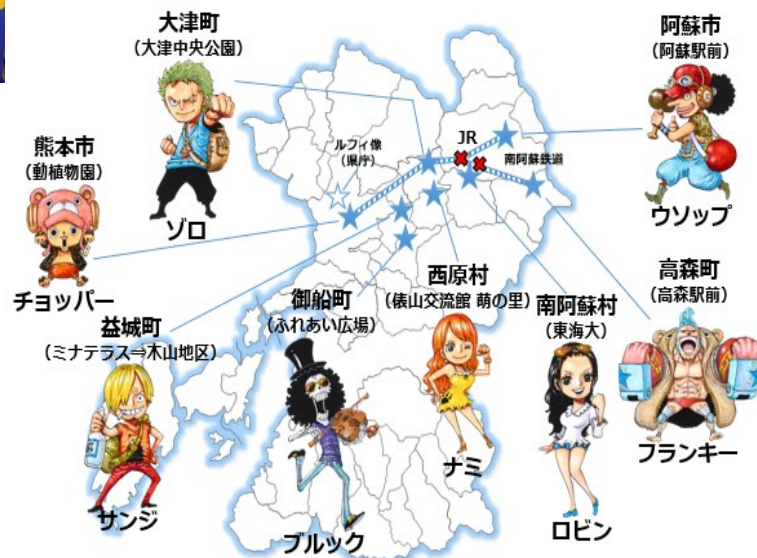
麦わらの一味「ヒノ国」復興編

ストーリー

- 熊本こと「ヒノ国」に上陸した麦わらの一味は、熊本地震の被害が広範囲に及び、今なお、住民が苦しんでいることを知る。
- そこで、船長ルフィが、一味の仲間たちに被災地の復興の手助けを指示。
- 仲間たちは、それぞれの特技で被災地の困り事を解決し、復興へのエールを送るルフィのもと（県庁）での再会を誓う。



熊本の復興を手助けしたいという熊本県出身の漫画家 尾田栄一郎先生の思いから始まった「ONE PIECE熊本復興プロジェクト」。2018年には常設では世界初となるルフィ像が県庁に設置。昨年「麦わらの一味」の像が県内各地に計9体設置完了。



熊本地震震災遺構周遊アプリ

IKOU⇒



The New Programms In Kuma Ville

『球磨村+探求×体験』



★ 山村地域一体となった令和2年7月の豪雨大災害からの再起(リバイバル)を学ぶ旅 ★

災害からの復旧復興を、創造的復興として取り進む球磨村。破壊された故郷を再生し、次世代に自然豊かな球磨村を引き継ぐための様々な取り組みを進めています。球磨村でしか体験のできないプログラムを体験し、災害、自然、森林、山村振興、脱炭素、SDGs、自然の遊びへの探求を深め、学生たちの心の成長を促す旅に。

熊本県南部に位置する球磨村。村の約90%が森林で、村の中央を日本三大急流の一つ球磨川が流れる自然豊かな山村である。令和2年7月、過去経験したことのない球磨川の氾濫による大洪水により壊滅的な被害を受けた球磨村。あれから2年が経過し、現在、地域が一体となり山村地域の再生に取り組んでいる。さらに、球磨村は熊本南部豪雨災害からの創造的復興と、災害復旧のさなかに環境省の脱炭素先行地域に認定され、将来を見据え、環境に配慮した脱炭素のまちづくりを目指している。

このプログラムでは、球磨村が災害からの再起と山村地域の活性化に、自治体や企業、団体と連携を図りながら取り組んでいることを、災害復興、地方創生、脱炭素社会の実現、SDGsと絡めながら一緒に考え、球磨村の魅力である森林に関わる問題を考える体験学習。球磨川の魅力を堪能するアクティビティ、赤豚料理をメインに地産地消のグルメなどを堪能し、山村地域の自然や人に触れ、球磨村を学びとともに、思い切り楽しんでいたがくプログラムです。



■ 学習のポイント

- ①令和2年7月豪雨災害の被害の大きさや、復旧支援、復興状況を学ぶことにより、今後の地域防災のあり方を考える。
- ②被災地の創造的復興を目指した取り組みや脱炭素社会の実現、SDGsへの取り組みを知り、持続可能な村づくりを学ぶことで、これからの地方創生の重要性を考える。
- ③山村地域の特色を活かし、林業や観光による交流人口増への取り組みを自治体や企業と協力しながら進めていることを学び、これからの山村地域のありかたについて考える。
- ④自然を活かしたアクティビティや地産地消の食について体験し、山村地域の魅力について考える。



■ プログラム内容

- 令和2年7月の豪雨災害 講話
- 球磨村毒電力のカーボンニュートラルを目指した環境講話
- 森林組合よりSDGsへの取り組みや林業体験
- 球磨洞探検、球磨川ラフティングなどの自然アクティビティ
- 一勝地赤豚料理 球磨村、地産地消のグルメ
- 一勝地駅での一勝祈願(合格祈願)



【受入期間】 通年
 【受入人数】 45人程度
 【所要時間】 約180分
 【受付締切】 2ヶ月前

【問い合わせ先】
 〒860-6204
 熊本県球磨郡球磨村大字神辺甲1130
 球磨村森林組合
 TEL:0966(34)0211 FAX:0966(34)0100
 MAIL:info@kyusendo.jp



球磨村森林組合

球磨村森林組合

教育旅行事前・事後学習用ワークブック完成

◆ポイント

- ① 先ずは熊本県を知ろう！
- ② 火、水、人の3つの物語を紹介 ⇒ ③ 研究スポット紹介
- ④ 「熊本×探求」学習 ⇒ ⑤ あなたの地域のSDGs探求

↓プログラムサイト↓



熊本県教育旅行サイトよりダウンロードして活用ください。



目次		
はじめに	熊本県の気候	17
熊本県を知る(1) 熊本市	熊本県を知る(2) 熊本県	18
熊本県を知る(3) 熊本県	熊本県を知る(4) 熊本県	19
熊本県を知る(5) 熊本県	熊本県を知る(6) 熊本県	20

探究エリア① 阿蘇カルデラエリア

阿蘇ジオパーク

▲山頂がゴザリ塚のように平坦な特徴的な「米塚」。今は活動していないが元は火山。景観帯の中にたずねるのが美しい。

▲その大きさから「おの人の墓」が置かれていたことが世界的にも珍しい阿蘇カルデラ

【ジオパークとは】

地球のたどたどしい歴史がわかる地層や岩石、地形など、貴重な地質が多く残られるところを、大地の公園という意味で「ジオパーク」と呼びます。地質だけでなく、その地域の文化、伝統、生態系も重視されます。阿蘇カルデラは、地質資源の保全、研究、またそれら資源を活用した教育プログラムやジオツーリズムが高く評価され、2014年、国連のユネスコ世界ジオパークに認定されました。

(2021年4月現在、世界44か国、16地域、日本では他地)

【阿蘇山】

阿蘇山は日本を代表する活火山のひとつ。およそ30万年前から4800年前の大噴火を繰り返しており、世界有数の噴火を誇る阿蘇カルデラを有しています。

巨大カルデラは巨大噴火により形成され、約9万年前の最大の噴火は北部方向を襲い広く、海を隔てた山口県まで流れました。火山灰は北海道圏定でも15cmの層として確認されています。

世界の同様の噴火では、世界遺産で準自然化が確認されており、当時の地殻変動に大きな影響があったと推定されています。

【阿蘇火山博物館】

阿蘇山の火口近くに広がる阿蘇草千里公園の一角にあるミュージアムスペース。阿蘇山の生い立ちから現在の生態系に関する、総合的に学習・見学ができます。

約30万年前から始まる阿蘇の歴史を順巻機で体感しながら学べます。また、中世火口の標榜には、実際の火口に設置された2台のカメラが捉えた火口内の映像がデジタルを通してプロジェクションマッピングによって投影され、火口に行けなくても生きている火山を体験することができます。さらに3面のスクリーンを有するマルチスクリーンでは阿蘇の自然や火口の様子も170度の超広域映像で観覧できます。

草原の野焼き

昔から草原を焼く「野焼き(のやき)」は、阿蘇の風物詩として知られる大事な風景です。暑か(雨の多い)日本では火災が容易に発生し、草原は野焼きをせずにおく森林になります。阿蘇の草原は、人々が暮らしに利用することで守られてきました。平安時代には草刈りが行われ、江戸時代には家畜のえさや肥料、燃料として、草が焼かれて利用されました。明治時代に入ると、肉用の牛が放牧されるようになりました。野焼きのため、古くは縄文時代の地層からも野焼きの跡が見つかっています。このように時代の変化に応じて利用の形を変えながら、一万年も受け継がれてきたのです。

阿蘇では今も約1万6千ヘクタールの草原が焼かれています。この90年で野焼きは半分以下に減りました。生活に草を焼くなくなり、畜産量が減って牛の放牧が減り、さらに地域の過疎化と高齢化で野焼きの人手を確保するのが難しくなってきました。地域の大事な草を守るため、地元ではさまざまな対策に取り組んでいます。毎年夏の野焼きには大勢のボランティアが参加し、企業や行政による資金援助も増えています。阿蘇特有のおかししの焼ひ込にも力を入れ、産物の少ない肉質に評価が高まっています。環境に優しい資源として、かやび産物の材料や自然の肥料として草を焼く働きも復活してきました。

リモノイト

【リモノイト】は、成分を多く含む鉱物のことで、「魔物石(まものいし)」と呼ばれます。阿蘇では、大噴火によって生まれた日本一といわれる温泉のリモノイトが地下に眠っています。地元企業の日本リモノイトは、いろんな物質とくっ付きやすくなる鉱物の性質を生かし、下水処理場などで発生する有害ガスを取り除く「脱臭水素材」を製造販売しています。

リモノイトを加熱すると、色が赤色に変わります。「べっか石」と呼ばれ、古くは古来の石炭や石油で燃料に使われてきました。阿蘇産の効果もあり、神社の御朱印などにも使われています。リモノイトが「に」流れるとくく見えることから、阿蘇には「赤火」という地名もあります。

阿蘇神社

阿蘇天守府の東隣、歴史の一角、阿蘇神社。阿蘇の歴史、阿蘇の文化(おはなはつ)の中心地。おはなはつ十二景の一つである阿蘇神社で、全国に500を超える分社があります。全国的にも珍しい御祭で、境内には「おはなはつ」を祀る「おはなはつ」の石が並び、境内には「阿蘇の御祭」として国の重要有形民俗文化財に指定、一の神楽、二の神楽、三の神楽、横門・神楽門・御祭門の6種は国の重要文化財に指定されています。また、横門は日本三の横門の一つに数えられ、「熊本県史」に「熊本県の自衛」に書かれています。熊本県で阿蘇神社は、重要文化財の神楽、神楽、御祭が全部、その他の建物も大きな価値を受けました。

教師用指導解説書付き

◆ポイント

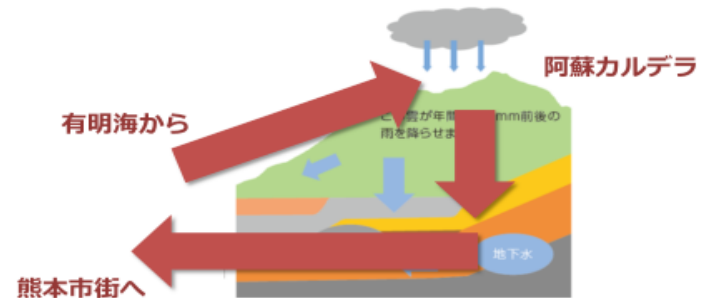
この資料では、実際の授業の進め方について、コマごとの説明をしています。実際の学校での進行によって柔軟な対応が必要になると思いますので、参考としてお使いください。

熊本×探究 ～地域の成り立ちを考えて SDGsを見つめよう～ 【教師用指導解説書】

学習の流れ 詳細 (P.9～10)

③ 熊本県の「水」の説明を読む

「火の国」と同じく熊本は「水の国」とも言われます。これは阿蘇カルデラに降り注ぐ雨が地下水となって、豊富な水の恩恵を人々に与えるからです。



熊本県の「水」の恵みとしては、生活用水や農業用水として利用される湧き水があります。また、畏れられるものとしては「水害」がありますが、この地を治めていた加藤清正が行った治水事業は今も姿を残し、現代の人々にも恩恵を与えています。

④ 10ページを使って「水」のイメージを振り下げる

「探究ワーク6」では、水のイメージを＋面と－面に分けて挙げてみてください。挙げてから分類するのももちろんOKです。その際にはポストイットなどを使うと良いでしょう。
〈例〉＋：風呂、飲み水、栽培 －：川の氾濫、大雨
〈事後学習〉実際に見てきたものを整理してみましょう

さらに、「探究ワーク7」で13ページ以降で紹介している探究スポットの中から「水」を感じるものを取り上げ、「氷山の一角」モデルで振り下げてみましょう。

〈事後学習〉3エリアで訪れたスポットをそれぞれ書き込み、水の流れを考えます。これにより水の循環がより具体的にイメージすることができます。

